



【大阪市立住まい情報センター・大阪市立大学共催シンポジウム開催案内】
大坂の記録、大阪の記憶
～描かれた大坂と今、大坂という土地の記憶と今～

2019年3月31日（日）、大阪市立大学大学院文学研究科は、大阪市立住まい情報センターと共催でシンポジウム「大坂の記録、大阪の記憶～描かれた大坂と今、大坂という土地の記憶と今～」を開催します。

江戸時代には既に大都市であった大阪（大坂）の街とその周辺を絵入りで描いた記録は、古くは『摂津名所図会』『和泉名所図会』（共に寛政8年/1796）、『河内名所図会』（享和元年/1801）などがあります。カラー版の記録としては、広重の浮世絵版画「浪花名所図会」（天保5年/1834）が最も早く、また上方浮世絵師国員、芳瀧、芳雪によって描かれた幕末の浮世絵シリーズ「浪花百景」に描かれたイメージは、私たちにとって馴染みの深いものです。

一方、そこで描かれた大阪の街が、時代の変化に伴って絶え間なくその姿を変えながら、今も私たちの生活の場として、あるいは生活の傍らにあることは言うまでもありません。

本シンポジウムでは大阪という街の昔と今を、「記録」と「記憶」をキーワードとしてさまざまな角度から検討していきます。



「浪花百景 さくらの宮景」（大阪市立中央図書館蔵）

記

- 【名称】 シンポジウム「大坂の記録、大阪の記憶～描かれた大坂と今、大坂という土地の記憶と今～」
【開催日時】 2019年3月31日（日）13：30～16：00
【開催場所】 大阪市立住まい情報センター3階ホール（〒530-0041 大阪府大阪市北区天神橋6丁目4-20）
【パネリスト】

天野景太（大阪市立大学大学院文学研究科准教授、観光学）
酒井裕一（大阪くらしの今昔館ミュージアムボランティア「町家衆」）
菅原真弓（大阪市立大学大学院文学研究科教授、日本美術史・文化資源学）
松井恵麻（大阪市立大学大学院文学研究科、地理学・文化資源学）

- 【対象】 一般
【定員】 100名（申込先着順）
【費用】 無料
【主催】 大阪市立住まい情報センター、大阪市立大学大学院文学研究科
【申込方法】 ①住まい・まちづくり・ネットのイベントページより申し込み

<https://www.sumai-machi-net.com/>
②チラシ裏面の申込書にご記入の上、往復葉書で下記へ申し込み

【本件に関するお問合せ先・お申し込み先】

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪市立大学大学院文学研究科 教授 菅原真弓
メール：sugawara@lit.osaka-cu.ac.jp